

日坂小学校・東山口小学校統合準備委員会（第4回総務部会） 協議録

日時	令和7年10月29日(水) 19:00～21:00
場所	日坂地域生涯学習センター
出席者	委員 19名 事務局 教育長、学校再編室長、学校再編係長、学校再編係主任、学校再編係主事補
内容	
1	開 会
2	あいさつ（教育長） <ul style="list-style-type: none"> ■ これまで、子どもたちが気持ちよく学校生活を送ることができる新しい学校を目指し、統合に向けた検討を重ねていただいたことに、感謝申し上げます。 ■ 今年度、原田小学校と原谷小学校が統合した。統合前は、学校生活や学習面に不安を抱く保護者もいた。しかし、交流事業等を実施した成果もあり、現在では両地区の子どもたちが和気藹々と学校生活を送っている。 ■ 子どもたちが新しい環境でしっかりと学びができ、安心して生活を送ることを最優先に考えて、統合準備に向けた協議を進めていただければと思う。
3	報告事項 <p>(1)PTA 組織について</p> <p>資料1：PTA 組織について</p> <p><日坂小学校教頭></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 現状、両校の PTA の運営方法には異なる部分がある。今後は統合に向けて、両校の PTA 役員を中心に、委員の選出方法や活動内容等の改定について話し合いを進める予定。 ■ 決定事項は、総務部会で報告する予定。 <p>(2)小小交流について</p> <p><東山口小学校長></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 今年度の交流事業は、既に4分の3が終了している。今後は、11月から12月にかけて、各学年2回ずつ行う予定。両校の教員が協力して授業案を検討している。 ■ 子どもたちからは、「友達が増えた」「一緒に勉強することが楽しい」「自分の考えが広がった」など、交流を重ねてきた良さを受け取れる感想が出ている。また、お互いの名前を覚えるために名札を購入し、交流の際に着用している。 ■ 今年度は、東山口小学校で交流授業の合同参観会を行っている。現在、2～4年生と6年生の参観が終了している。1年生は12月に、5年生は明日行う予定。 ■ 参観した保護者からは、「同級生が増えることで意見がたくさん出てきて良い」「両校の児童が一緒に話し合う雰囲気がとても良いと感じた」など、交流事業に対する感想をいただいた。 ■ また、「今日は参加して良かった」「自分の目で見ないとわからない」「先生方のチームプレイに安心した」など、参観会に対する意見もいただいた。 ■ 一方で「まだ少し緊張した表情がある。これから交流する中で、楽しい学級づくりをして欲しい」「日坂小学校では積極的に発言できる子も、慣れない場所のせいか、普段より発言が少ない。それでも、話し合いに参加できていたので、もっと仲良くなっていく姿を見たい」などの意見もいただいている。

- 参観会の目的は、子どもたちの学校生活を生で見ていただくことだと考えている。子どもたちや保護者の声を聴きながら、改善していきたいと考えている。
- 来年度は、交流授業の回数を増やし、各学年8時間の実施を予定している。やはり、子どもたちが触れ合う中で、人間関係の形成や授業の深まりを実感する場面が多いため、交流の回数を十分に確保していきたいと考えている。
- また、子どもたちから「お互いの学校について知りたい」「校舎に入りたい」などの意見も出ているため、来年度は、日坂小学校での交流事業を増やしたいと考えている。
- 交流事業以外にも、ICTを活用し、英語や音楽のオンライン授業を実施している。
- 今後は、委員会活動等の学校のルールを調整しながら、円滑な統合を目指した交流内容を行っていきたいと考えている。

<委員意見>

- 子どもたちは、東山口小学校と日坂小学校が統合することを知っているのか。
 - ⇒ 東山口小学校では、1学期の終業式の際に、日坂小学校と統合することを説明した。また、交流を通して、日坂小学校の子と一緒に、令和9年4月の新しいスタートを迎えていこうという話もした。
 - ⇒ 日坂小学校でも、2学期の始業式の際に、同様の説明をした。
- オンライン授業について、詳しく説明して欲しい。
 - ⇒ 今年度は、4年生が栄川学園の音楽祭で発表する機会があった。交流事業が音楽の授業だけに偏らないように、一緒に練習する機会を持ちつつ、ミーティングや反省会などをオンラインで実施した。
 - ⇒ 英語の授業では、自己紹介等の英会話活動をオンラインで実施している。

4 協議事項

(1) 統合に向けて取り組む事項の検討

<事務局>

- これまで、子どもたちが新たなスタートを迎えるための取り組みについて協議していただいた。全ての意見を実現することは、時間や人員、予算等の制約があるため難しい。そのため、今回の総務部会は、実施すべき事業の取りまとめを検討していただきたい。
- 今回は、実施すべきだと思う事業について、委員の皆さんから意見を出していただきたいと考えている。これまでの話し合いで出された意見でも、個人でやりたいと考えているものでも構わない。ただし、提案いただいた事業の効果や課題点等を踏まえた上で協議を進めていただきたい。
- 最終的には、提案された事業について投票を行い、優先順位をつける予定だ。その後、提案された事業の実施の可否について、それぞれの実施主体で検討していただく。
- 基本的には、総務部会の検討結果を尊重し、実施する事業を決定する。ただし、様々な事情により、事業内容を修正したり、実施困難と判断したりする可能性がある。

<委員意見>

- これは、前回の総務部会を欠席した方が参加できる内容なのか。また、どの資料を基に協議すれば良いか。参考とする資料が異なれば、視点も変わるのではないか。
 - ⇒ 第3回総務部会の資料4を参考にしていればと思う。
 - ⇒ 難しく考えず、やりたいと考えている事業を出していれば良い。

- 資料3には、前回の話し合いの内容がまとめられている。前回の議論を基に進めるのではなく、新たに意見を出し合うということか。それでは、これまで何のために協議したのか。一生懸命話し合ったことが生かされない。
- これまで積み重ねてきた話し合いが、振り出しに戻ってしまうように感じる。
 - ⇒ 前回のグループワークは、効果や課題点などを踏まえた話し合いを行うための思考実験として実施した。そのために、グループで1つだけ事業を選び、協議したのであり、必ずしも全員が一致して「やりたい」と考えて出された意見ではない。
 - ⇒ 前回までの協議で出された意見に、実施したいと思うものがあれば、改めて出していただければ良い。前回の話し合いの際に、グループワークで出された意見を基に議論を進めるとは伝えていない。
 - ⇒ 前回までに出了された意見以外にも、他に皆さんがやりたいと感じていることがあるはずだ。それについても意見を出す必要があると考えている。
- 前回のグループワークで出された意見を候補に挙げた上で、その他の意見を出せば良いのではないか。
 - ⇒ 皆さんが賛成するのであれば、そのように進めていただいて構わない。
- 前回の話し合いは、グループの中で各委員が一生懸命考え、発言した上で結論を出した。「話せなかった人がいるかもしれない」と決めつけることは良くない。

<部会長>

- これまでの議論で出された意見を生かしたいと考えている委員が多いように感じる。これまで、出された意見に対して、全体に賛否を問う機会を設けていなかった。そのため、意見の取りまとめを行うことが、今回の目的だと考えている。
- 前回は、Cグループの協議に参加した。グループでは「子どもたちが主体となってイベントを企画・実施」という取り組みを選んだ。ただ、話し合いでは、地域との繋がりを大切にしたいという思いから「地域を教材とした学習活動の推進」を選ぶ委員もおり、他の委員からも「そのような視点は大切だ」という意見が出されていた。
- 前回は、グループで意見を一つに絞る必要があったため、最終的に4つの意見に集約されたが、話し合いの中で、各委員が持ち寄った案も、実は実現可能な意見の一つだったかもしれない。今回は、それらの意見も含めて、効果や課題等を検討し、総務部会としての意思決定を行いたいと考えている。

<委員意見>

- 確かに、Cグループでは「子どもたちの主体性」について選んだが、その他にも様々な意見が出された。それらの意見を出していけば、効率的に協議が進み、前回までの議論も生かせるのではないか。

<部会長>

- 議論を重ねていく中で、実施が困難な取り組みや、楽しそうだからやってみたいという意見が出てきていると思う。それらを共有する機会が無かったため、これまでの議論も踏まえて、実施すべき取り組みについて意見を出していただきたい。

<委員意見>

- 話し合いの内容が焦点化されていない。例えば、「子どもの意見」「学校側の意見」「地域の意見」「保護者の意見」のように、視点を絞って協議できれば、発言しやすくなる。
- 日坂・東山地区では、統合について3年近く議論を重ねた上で結論を出したはずだ。住民にも意見が伝わっているはずである。それにもかかわらず、改めて地域や保護者にアンケートを取るということは、議論が振り出しに戻ってしまう。地区や保護者の代表として準備委員会に出席している以上、私たちが統合に関する様々な事項を決定し、その結果を情報公開していくことが筋だと思う。
- 地域へのフィードバックは、悪いことではないと思う。

<部会長>

- ただ、子どもたちに全ての意見を聴くわけにもいかない。委員の皆さんで何をするべきなのか洗い出し、焦点化していくことが、準備委員会の意義だと思う。

<委員意見>

- 取組カルテに書かれている項目を候補に挙げた上で、その他の意見を出していくという進め方をしたい。
- 前回のグループワークの際に、個人で実施すべき取り組みを選んでいる。それらの意見を出していけば、候補が20個程度になるのではないか。

<部会長>

- 前回までの議論も踏まえて、意見を出していただきたい。

<委員意見>

- 校名を早く決める必要があるのに、論点をずらされているように感じる。スケジュール的に間に合うのか心配だ。後回しにされた結果、変更が間に合わないという結論にされてしまいそうだ。早いうちに、一番の課題点である校名について決めたい。
- 日坂・東山地区の要望書に立ち返って欲しい。これまで議論した結果、子どもたちのことを第一に考えるという意見が多かったはずだ。それを踏まえて話を進めていかなければ、同じ議論を繰り返すばかりだ。
- 前回の話し合いで「校名・校歌・校章を子どもたちも含めて検討する」という意見が出た。実施する場合は時間がかかるため、校名変更について方向性を決めた方が良い。
- 児童や保護者にアンケートを実施したら良いのではないか。アンケートの中で、校名や不安に感じていることなど、様々な項目を設け、意見を吸い上げたら良いのではないか。
- 前回の話し合いで、「アンケートはきずなネットなどの既存のツールを活用してスピーディーに進める」という意見が出た。統合について何も意見が言えないと思われてしまうことは悲しいため、子どもたちや保護者の意見を吸い上げることも大切だと思う。
- 閉校式についても決めたい。社会人になった卒業生が、日程を気にしていた。
- 保護者と地域住民では、統合に対する考え方が異なる。保護者は、教育や通学支援に関心がある。一方で、地域住民は、地域の核である学校を失う悲しさがあり、学校の代わりに何か新しいものを求めるのだと思う。例えば、「日坂・東山地区の子どもが東山小中学校に通う」のように、3地区が同じ合意形成の下で話し合わなければ、議論が噛み合わない。特に、要望書の最初に書かれている校名について合意形成ができなければ、その他の議論が難しいと思う。一番大切なことは、子どもたちの教育について考えることだと思う。

- 各地区の想いがあると思うが、子どもたちのために、3地区が力を合わせて新しい学校をつくるという視点が大切だと想う。保護者や地域が関心を寄せていることは、これから学校がどうなるのかという点だ。時間がかかったとしても、それぞれの立場から意見を出してもらうべきだ。
- いつまでも校名の議論を続けていると、令和9年4月の統合に間に合わない。前の東山小校長は、「一刻も早く、両校の児童が1つの教室で学びをつくらなければいけない」という話をされていた。子どもたちの学びを阻害する様なことは良くない。
- 新しい学校をつくるために、必ずしも校名が必要ではないと思う。何回か交流授業を参観したが、両校の児童が同じ教室で学んでいても、全く違和感が無い。校名以外にも様々な意見が出ているので、そちらを検討した方が良いのではないか。また、「保護者と子どもが統合について対話する」という意見が出された。大切だと思うが、特にネガティブな保護者の意見は、子どもに誤った意味で伝わる恐れがある。
- 校名変更の可否は、どのように決めるのか。
 - ⇒ 校名も含め、実施するべきだと考える事業を挙げていただき、投票で決定する。
- 投票での決定は、2地区から委員が選出されている日坂・東山地区に有利だ。
- それを言い始めたら、アンケートの実施は、住民の多い東山地区に有利だ。それでもアンケートを実施したい理由は、地域に意見を聴いた上で結論を出せば、どのような結果になったとしても納得できると思うからだ。まず、地域や保護者から意見を吸い上げて、最終的に委員が決めるという方法でも良いのではないか。
- そもそも東山地区の委員は、アンケートで校名を決定することに賛成していない。
- 多数決で校名を決めるためにアンケートを実施したいわけではない。保護者や地域の意見を聴くために実施したいと考えている。
- そのようなことであれば実施すればいい。
- 新しい学校とは何か。学校の場所は決まっており、学習内容も大きく変わるわけでもない。新しくなるのは、人数が増えることではないか。そのような新しい教育環境で、子どもたちがどのように学習するのかという部分を心配しているのだと思う。
- 様々な意見が出てきたが、私たちはあくまでも諮問機関であり、掛川市が最終的な判断をするのではないか。
- 学校は、子どもたちが教育を受ける場所であり、そのための教育環境について考えるべきだ。地域の将来を担う人材を育む場所だと考えれば、校名にこだわる必要も無いと思う。私たちの意見を積極的に取り入れてもらえるように、実施するべきだと考える事業の優先順位をつけることができれば良い。
- 既に、準備委員会の内容は、十分に情報発信されている。それでも、関心を持っていない人には届かないし、「自分の知らない所で勝手に決められた」と言い出す人が出てきてしまう。その部分を理解した上で進めていく必要があると思う。

- 栄川学園で小中一貫校を整備する際は、校名をどうする予定なのか。日坂・東山地区の子どもたちにとっては、短期間で母校の名前がどんどん無くなってしまうことになる。

<教育長>

- 学校再編計画では、現在の中学校区単位で小中一貫校を整備する予定だ。したがって、現在の学園名が小中一貫校の校名になる。現段階で、小中一貫校の学校名は、小学校と中学校を合わせて「学舎」と名付けることを教育委員会の中で検討している。例えば、現在整備を進めている城東学園の場合、学校名が「城東学舎小中一貫校」となる。小学校の名前は検討しない予定だ。
- 栄川学園では、今後 10 年間で子どもの人数が約 45%減少することが予想されている。少子化を考慮すると、現在の中学校区単位での再編計画を見直さなければならない可能性がある。
- 掛東学園では、地区要望として、駅南地域の学校整備が挙げられている。もし実現する場合、掛東学園の駅北地域と栄川学園、冀北学園の一部で再編を検討する必要があると考えている。
- 栄川学園だけで小中一貫校を整備できる状況であれば、「栄川学舎小中一貫校」という名称が望ましいと思う。しかし、現状を踏まえると、学校再編の見直しについて断言することはできない。

<委員意見>

- 新しい学校とは何か。私は、子どもたちの母校を大人が責任を持って確保することだと思う。学校名は、子どもたちの母校の名前である。母校に対して、子どもたちが愛着を持つことができるかという点は、とても大切な議論であり、地域の中でも検討する必要があると思う。労力がかかることを理由に、校名変更を検討しないのではなく、開校に向けて、どのように力を合わせていくのか考える必要がある。

<教育長>

- 日坂・東山地区の皆さんと同様に、東山口地区も学校に対して様々な想いを持っている。日坂・東山地区の要望も伺っているが、最終的には、東山口地区の方にご理解いただき、合意形成ができなければ、進めることができないと考えている。
- また、事業を行うためには、予算が必要であり、その点も考慮した上で検討しなければならない。
- 開校時期を遅らせないためにも、学校名について、なるべく早期に両地区で結論を出していただきたい。

<委員意見>

- 少子化や再編計画の見直しについて説明があった。地区で培ってきた歴史があるため、再編ばかりを議論するだけでなく、少人数でも豊かな教育が進められる環境についても検討していただきたい。行政が最終決定権を持っているのかもしれないが、そのようなイメージが先行してしまう話し合いは良くないと思う。時間はかかるかもしれないが、3地区がそれぞれの想いを持っているため、委員の皆さんが屈託の無い意見を出し合って進めていくべきだ。

<教育長>

- もちろん、皆さんの意見を大切にしながら進めていきたい。ただし、行政は予算を基に事業を進める必要があるため、最終的な判断について断言することはできない。

<委員意見>

- 予算を全面的に出されると、意見を出しにくくなる。

<教育長>

- ただ、最終的には予算の問題になる。全ての学校が平等になるように予算をつける必要があるため、今回の統合にどの程度の費用がかかるかを考慮する必要がある。

<委員意見>

- 市教委は、当初から地区や保護者で決めてくださいと言っている。そのために、判断材料として様々な資料が提示されている。開校時期も決まっているため、今のような曖昧な議論の進め方ではいけない。
- 市教委は、費用や労力を理由に校名変更が難しいと説明してきたが、校名を変更すると決定した場合は、それらに関係なく進めていくということが良いのか。
- 校名を変更すると決定した場合でも、予算が取れなければできないということか。それなら、話し合いの意味が無いのではないか。

<教育長>

- その可能性はある。原野谷学園や城東学園も、予算の関係で開校時期が遅れている経緯がある。

<委員意見>

- 開校時期が決まっているのに、まだ予算が決まっていないのか。それなら、予算が決まってから話し合うべきなのではないか。もし、予算の関係でできないとなれば、時間の無駄では無いか。

<教育長>

- まだ来年度の予算が決まっていない。
- 行政としては、地域で話し合った結果、校名を変更するという結論に至れば、予算が付けられるように努める。ただし、市全体の教育予算は決まっており、全ての学校が平等となるように配分する必要がある。その中で、統合にどの程度の予算をつけることができるのか考える必要がある。必ずしも理想通りに実施できるとは限らない。

<委員意見>

- 予算の関係で実施できない可能性がある上で議論することを、最初に言って欲しかった。保護者は、予算の都合で統合準備を妥協するべきでは無いと感じていた。今のように、予算配分について説明があれば、議論の仕方が変わっていたのではないかと感じる。

<教育長>

- それは申し訳なかった。しかし、予算や労力については、事務局から説明している。
- 予算が付かないと分かった時点で、実施できる状態にできる限り近づけていくのか、それとも校名を変更せずに統合するのか、改めて議論する必要があると考えている。
- 学校に関する要望は、様々な地区から寄せられているが、限られた予算の中で、解決策や妥協点を模索しながら進めている。
- 実施を決めた事業は、財政部と協議し、予算が付くように努めるつもりだ。ただし、教育委員会は予算の決定権が無いため、実施できるか否かをこの場で断言することはできない。予算が課題となることは、協議の中で事務局から説明している。

<委員意見>

- おっしゃる通りで、予算や労力の問題は、これまでの総務部会の中で、事務局から何度も説明があったはずだ。皆さんも承知しているはずだ。
- それについては、これまで議論してきたではないか。
- 結論は出していない。
- 日坂・東山地区では、費用や労力を理由に、子どもたちや地域が我慢するべきではないという意見で一致している。
- 東山口地区は、その意見に対して賛否を述べていないし、納得もしていない。
- 今の議論の進め方は、一人ひとりの時間を取り上げている状況だ。司会の方から、どのように進めていくか指示を出していただきたい。ただ、さかがわ幼稚園を整備した時の市教委の進め方には、地域が納得していないし、そこには大きな費用をかけたはずだということだけは、一言申し上げておきたい。

<部会長>

- 現時点で採決を取ることは難しいため、次回の総務部会に議論を持ち越したいと思う。また、進め方についても事務局と検討する。
- 今回の総務部会は、初めて両地区の委員が腹を割って話し合う機会だったのかもしれない。学校としては、子どもたちが安心して令和9年4月の統合を迎えられるように願っている。子どもたちだけで無く、保護者や地域を含めた全員が、新しい学校のスタートを笑顔で迎えている姿を、日々イメージしている。そのために、学校も頑張っているのので、委員の皆さんにも、子どもたちが安全に楽しく学校生活を送ることを最優先で考えていただき、実施する事業を決めていきたいと考えている。

<教育長>

- 学校現場は、統合に向けた様々な取り組みに尽力している。特に、交流事業を通して、人間関係づくりに努めている。校名変更などの議論がどのような結論になったとしても、人間関係さえ上手く築くことができれば、学校として成り立つと考えている。
- 予算について何度も説明している理由は、人件費が削られることを懸念しているからだ。現在、学校現場では、教職員の数が足りないため、学校サポーター等の非正規職員の方に助けていただいている。しかし、その予算を付けることも厳しい状況である。子どもたちに最も影響する人員配置と教育環境について、最優先で考えていただきたい。また、検討の際は、学校現場のことも忘れないでいただきたい。

(2)事務連絡

- 次回開催予定：11月26日（水）19:00～ 東山口地域生涯学習センター

4 閉 会